



「爽やかな風とともに」

こうちょう なかむら まさと
校長 中村 真人

5月の硫黄島は、さわやかな風が吹き、過ごしやすい日が多く感じられます。自然の恵みも豊かで、子どもたちは四季折々の自然に触れながら、のびのびと学んでいます。

先日行われた保護者会主催の「磯研修」では、山班と海班に分かれて食材を調達し、みんなで調理して味わう活動を行いました。山班が収穫したタケノコは、炊き込みご飯や天ぷら、焼き物にして堪能しました。自然の中で食材を探し、仲間と協力して料理を作る体験は、子どもたちにとってかけがえのない学びとなりました。

5月は行事も盛りだくさんでした。ゴールデンウィークに始まり、教育相談、海岸清掃、ふれあいレクリエーション、そして3年生の集合学習など、多くの活動を通して保護者や地域の方々と交流しながら、豊かな学びを得ることができました。

そして6月には、いよいよ『みしまっ子ジャンベツアー in 大阪』が予定されています。6月10日には、2025年大阪・関西万博の「ギニア・ナショナルデー」にて、三島村の4つの学園から参加する子どもたちがジャンベの演奏を披露します。三島村の魅力を、世界に向けて発信する貴重な機会となります。

三島村とジャンベとの出会いは、1994年の夏にさかのぼります。ギニア共和国の国立舞踊団のトップ奏者であるママディ・ケイタ氏が三島村を訪れ、「日本の小さな村の子どもたちと交流したい」という思いから、ジャンベを伝えてくれました。最初は戸惑っていた子どもたちも、ママディ氏の「うまく叩く必要はない。楽しんで叩くことができれば、聞いているみんなも幸せになれる」という言葉に励まされ、次第に演奏の喜びを感じるようになりました。その後、広島・岡山・奄美大島での演奏旅行を経て、三島村にはジャンベの音色と子どもたちの歌声が響くようになりました。

この出会いをきっかけに、みしまっ子たちはギニア共和国を訪れ、さらにはヨーロッパでの公演を行うなど、活躍の場を広げてきました。2005年の「愛・地球博」では、「ギニア・ナショナルデー」にてギニアの奏者とセッションを行い、会場を大いに沸かせたと聞いています。

そして今年、三島村からは5年生から9年生の計51名が、大阪・関西万博のステージに立ちます。三島村の文化と伝統、そして子どもたちのエネルギーを世界へ発信する、大きな挑戦の舞台となることでしょう。

＜45年間の田知行義久さんの思いに感謝＞

11日(日)母の日、今年も田知行さんより子供たちにカーネーションをいただきました。花屋のない三島村、十島村の子どもたちのためにと、毎年、母の日に合わせてカーネーションを贈っていただきました。今年で45回目です。カーネーションを受け取り、親へカーネーションを手渡す子供たちは笑顔いっぱいでした。田知行さん、本当にありがとうございました。



＜海岸清掃＞

10日(土)土曜授業で長浜海岸を清掃しました。多くの保護者・地域の方々の協力の下、漂着したごみを拾い集めました。美しい地球を守るため、自分たちにできることを考えたいですね。



＜ふれあいレクリエーション＞

高齢者学級ふれあいレクリエーションが行われ、地域の高齢者の方々と子供たちが一緒にランドゴルフを楽しみました。



＜救命救急講座＞

日常生活の中で緊急事態が発生したことを想定し、友達や自らの命を守るために何が出来るかをみんなで考えました。正しい知識と理解をもち、危険を予測し安心・安全に行動できるよう危機管理能力を身につけることの大切さを学びました。



＜硫黄島クイズ＞ ～AEDはどこにある？～

- ① 学校の職員室前
- ② 開発センターの玄関
- ③ 冒険ランド硫黄島の管理棟
- ④ 港の出張所の玄関
- ⑤ 校長先生の家の前

(答えは硫黄島学園1・2年教室前に掲示中)



インスタ
フォロー
してね!



みしまっこ
日記も
よろしく

MISHIMAKK01